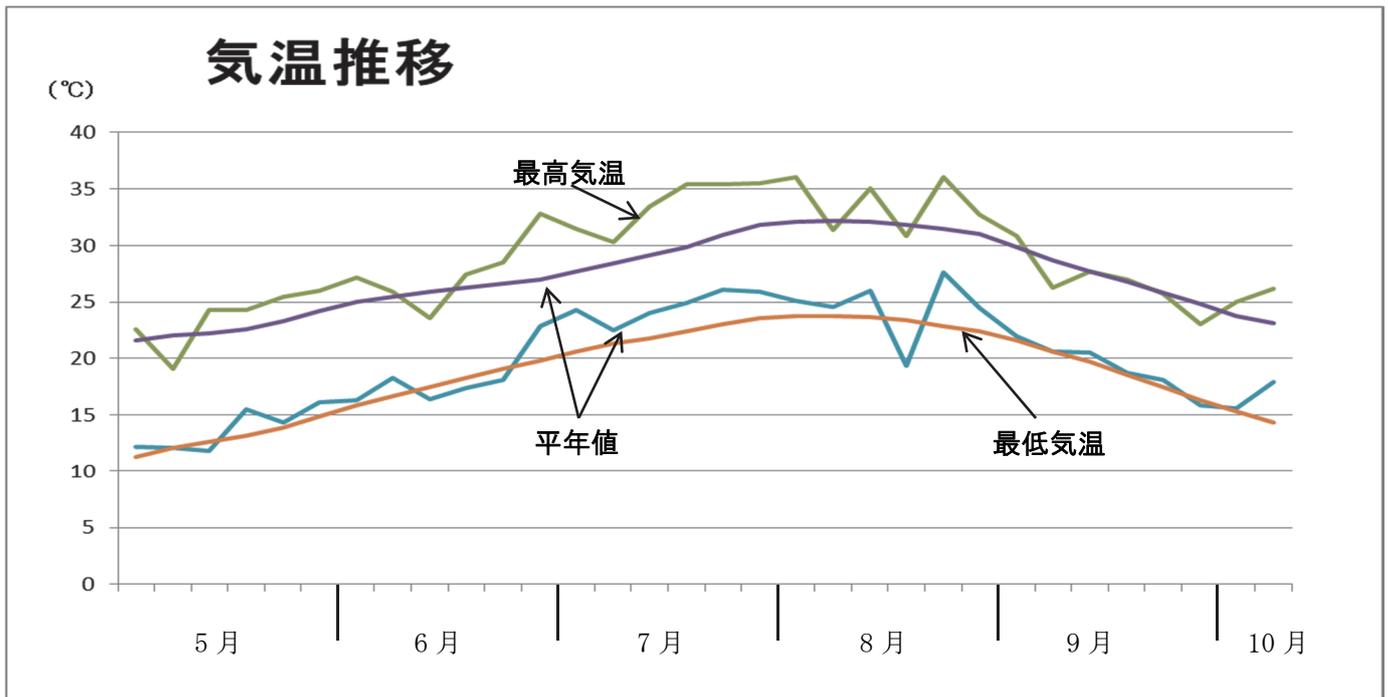
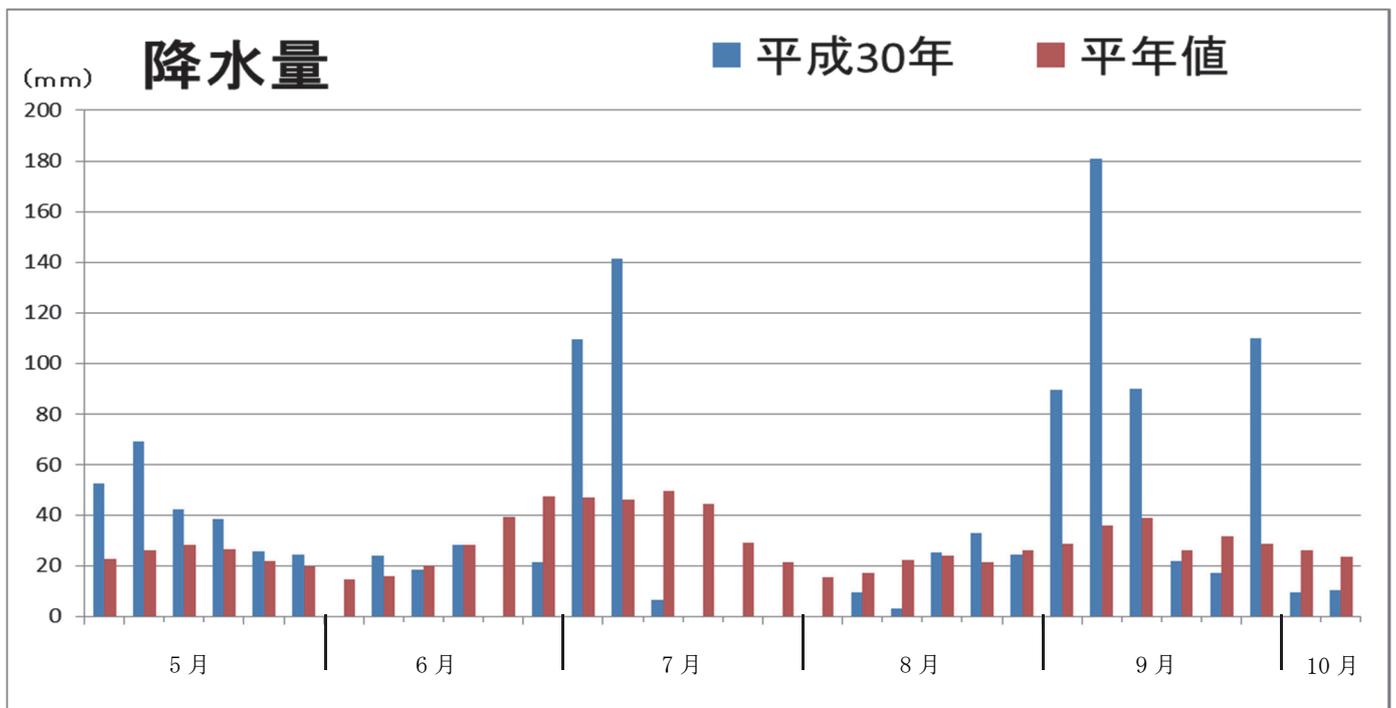


本年の気象と稲作の生育概要



平成30年産米の気温の推移を見ると、育苗期間は気温変化が大きく、ハウス管理が適切でないところで焼け苗やカビが発生しました。田植え時期以降の気候は概ね高温多照で推移し、特に6月中旬以降から8月上旬にかけては、記録的猛暑となったことから出穂は平年に比べて早まりました。



降水量については、7月中旬から8月中旬まで高温少雨が続いたことから、ハナエチゼン、コシヒカリ、あきさかりについて胴割米発生注意報が発令されました。しかし、9月になると台風や前線の影響で雨や曇りの日が多くなり、気温は平年並みで降水量は多く日照不足となりました。降雨の影響でコシヒカリの収穫作業は進まず遅れ気味になりました。

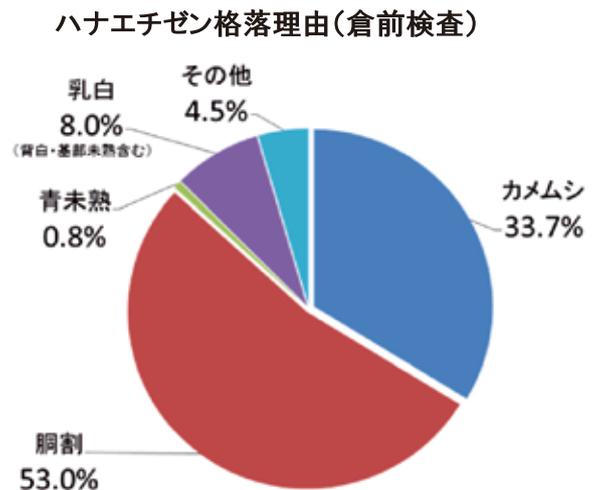
平成 30 年産米 収量・品質概況

倉前・良質米施設検査データ参照
平成 30 年 10 月 12 日 現在

ハナエチゼン

【上位等級比率 87.6%】

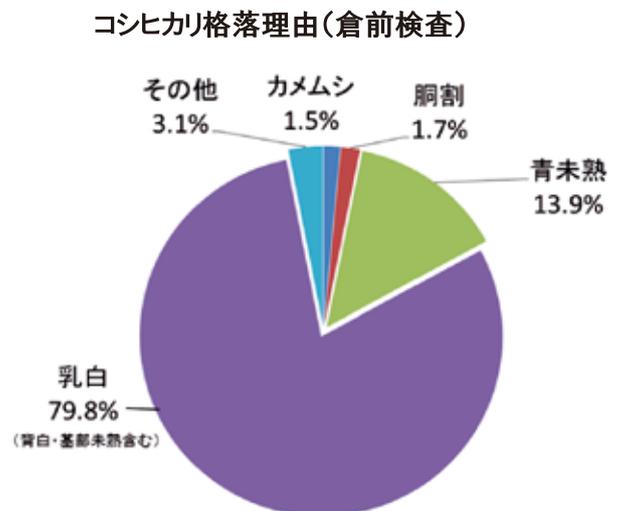
ハナエチゼンは7月、8月の高温・多照・少雨により全体的に出穂が早まりました。登熟は良好で増収となりました。品質は収穫期の猛暑による影響で胴割が多く発生しました。



コシヒカリ

【上位等級比率 71.9%】

コシヒカリでは登熟期の猛暑の影響や籾数がやや多かったことから背白・基部未熟が増加し、更に、台風の影響で倒伏が多発し、青未熟や乳白が発生したことにより、網下率が高く減収になりました。また、品質についても、平年より低い上位等級比率になりました。



日本晴

【上位等級比率 88.5%】

日本晴は日照不足による乳白粒や、台風の影響による茶米、降雨による発芽米等の発生が懸念され、品質の低下が心配されましたが、被害は限定的であり前年並みの上位等級比率となりました。また、収量については個人差があるものの平年並みと予想しております。

